講談サロン香織倶楽部 VOL.23

「闘いは 明るく 楽しく しつっこく」「あきれ果ててもあきらめない」

Facebook:https://www.facebook.com/kaori.kanda.94

『なんダッペ！ かんダッペ通信』

講談サロン香織倶楽部
機関誌「かおりくらぶ」
発行　香織倶楽部
発行責任者 立木寅児
定価 100 円
発行日 2024.11.30

「澄和（とわ）平和活動賞」受賞

本日は「講談サロン香織倶楽部」第２３回発表会にお越し下さり、心より御礼申し上げます。

早速、ご報告があります。不動産から出版まで、幅広いビジネスを展開しているスターツグループの村石会長が代表を務める一般社団法人澄和が、毎年、平和な社会貢献に取り組む方に、「澄和 Futurist 賞」という賞を出しています。

１０月８日を「とわの日」として、毎年この日に受賞者を発表します。今年の第９回受賞者３人の中の一人として、なんと私も選んでいただきました。これには本当に驚きました。なぜって、この賞は 2015 年設立の一般財団法人澄和が「より良い未来構築のために、地道に取り組んでいる個人または団体を表彰する顕彰事業で、第一回目が吉永小百合さん、二回目が山田洋次監督、それ以降も黒柳徹子さん、高橋尚子さん、MISIA さん、いるかさん、物故者では中村哲さん、坂本龍一さんなど世界的にも高名な素晴らしい方々が受賞されているのですから。

９年目の今回は、世界的な指揮者佐渡裕氏、世界５０カ国でアニメが放送されている「キャプテン翼」の高橋陽一氏と私です。私にはもったいない限りの賞ですが、受賞理由にあるように長年「はだしのゲン」や「チェルノブイリの祈り」など社会的なテーマを講談化し地道に語り続けてきたことを評価していただいたと思うと感無量です。村石会長は戦争で父を失い、父の顔を知らずに育った方で、その想いからこうした顕彰事業をはじめられたとのことです。また、Futurist 賞は今回から「平和活動賞」という名目も加わり、私がその第一号とは、またまた嬉しい驚きです。

そしてとわの日の 10 月８日から３日後の１１日、日本被団協がノーベル平和賞を受賞と言う奇跡的な朗報が飛び込んできました。ウクライナ戦争やガザ攻撃など紛争が絶えず、核兵器使用への危機感もあってか、いよいよ核廃絶へ向かって世界が動き出そうしている危機感からでしょうか。戦争被爆国として何をなすべきか、日本政府は真摯に応える時がきたのだと思います。

「とわ平和活動賞受賞」も「ノーベル平和賞受賞」も快挙には違いありません。その反面、世界では核戦争が迫っていて、日本では「戦争が廊下の奥に立っていた」ようなことにならないよう、講談として何ができるか、それが問われているような気がするといったらオーバーでしょうか。

講談サロンの皆様も、年ごとに実力を身につけてご自身のテーマで新作を読み、古典に挑戦されておられ心強い限りです。自分が未来を背負っている、ぐらいの気概を持ち、背筋を伸ばしてこれからも楽しみながら講談生活を送ってくださることでしょう。これからもサロンの皆様の成長を見守って応援していただけましたら幸甚です。　　神田香織　2024.11.30

テレ東 BIZ ニュース

（講談５００年の話芸のエキスを現代へ！）
「強きをくじき、弱きを助ける」講釈師は、その昔「ジャーナリスト」でもありました。

「闘いは明るく楽しくしつっこく」
「あきれ果ててもあきらめない」

第 9 回『澄和 Futurist 賞』

澄和平和活動賞 を 受賞された神田香織 先生 ㊗

昨日、東京會舘で行われた授賞式にお伺いし講談協会 公式 YouTube【講談かわら版】として取材させて頂きました。動画公開をおたのしみに講談協会公式チャンネル【講談かわら版】で検索

初演（1986）から 37 年を超え、全国で 10 万人が感動した　神田香織　代表作

講談「はだしのゲン」

「まったく、戦争や大災害の前で人間ははかない存在かも知れません。が、決してあきらめるのではなくゲンのように『来るなら来い！』という気待ちで前向きに生きてゆきたいと私は願っております。」

時代を力強く生きぬくゲンの姿を通じて反戦反核を訴えたヒット作品
神田香織が語り尽くす立体講談

「はだしのゲン」原爆投下のその日まで　（前説 20 分　本編 60 分）

米軍ジェット機墜落事件「哀しみの母子像」〔60 分〕

世界がどんなに平和でも、人には哀しい夜がある。それは愛するものとの別れ。まして理不尽に殺されるような目に遭ったら、その哀しみ、怒りを、どこへぶつければいいのだろう

スケジュール

原作「ジェット機事故で失った娘と孫よ」
七つ森書館　土支田勇著
講談「哀しみの母子像」60 分
作・構成：神田香織・タチキトラジ
企画制作：オフィスパパン

2024.10.30毎日新聞

原爆の実相 語り継ぐ

澄和平和活動賞 講談師 神田香織さん

口演する神田香織さん＝立木寅児さん撮影

漫画家、故中沢啓治さんの自伝的作品で広島の原爆を題材にした「はだしのゲン」の講談を続けて今年で38年。「音もない光もない暗闇のなか」「ただ幾色にも燃え上がる炎と煙の生き地獄」――。こんな語りで観客らを引き込む。「原爆の実相が力強く描かれた『ゲン』を口演することで戦争のむごさ、平和や命の尊さを表現する。その一念で続けてきた」と話す。

福島県いわき市出身。東京で俳優を目指すなかで講談と出合った。駆け出し時代の1985年にサイパンを旅し、多数の日本兵や民間人が命を落とした「バンザイクリフ」など戦争の爪痕に衝撃を受け「戦争をテーマにした作品を」と決意。広島平和記念資料館を訪れた際、館内の店舗で「ゲン」の漫画を手に取り、「これだ」と思った。中沢さんも講談化を快諾した。

講談では原爆が投下された45年8月6日の惨状に視点を置いた本編と原爆投下から敗戦までの総集編がある。86年の初演以来、主に本編を口演してきたが、広島市教育委員会が小学校の平和教育教材に用いてきた「ゲン」の漫画について「作品の一部だけを切り取っても被爆の実態は伝わりにくい」と昨年度から削除。「ゲンの全てを」と今夏、総集編を18年ぶりに復活させた。

来年は「戦後80年」。戦争体験者が少なくなり「語り継ぐ」という自身の使命を痛感していたときに受賞の知らせ。「力がわいてきました」と胸を熱くする。【明珍美紀】

2024 年 10 月 17 日朝日新聞

テレビ時評

熱い思い、多様に伝導　山根基世

1970年代前半に漫画雑誌で連載され始めた「はだしのゲン」は、6歳のとき、広島で被爆した作者・中沢啓治の自伝的漫画で、原爆の悲惨さをリアルに伝える作品として広く読み継がれてきた。ところが、ここ十数年は、図書館で閲覧制限をかけられたり、平和教育の教材から削除されたり、逆風も吹いている。

「『はだしのゲン』の熱伝導～原爆漫画を伝える人々～」（BS12、9月28日）は、そんな逆風も何のその、様々な手段でこの漫画を伝えようとする人々の姿を描いている。

長い物語を講談にして語り続ける女性、英語版を作り世界に広めている人々、広島の町を案内しながら中沢から聞いた被爆体験を伝えている女性、また、誇張されすぎていると、この漫画を否定する意見に対し、まさに描かれているとおりだったと、自分の体験と重ねて証言する被爆者たち。原爆で父、姉、弟を失った中沢の「殺された者の無念さを生き残った者が伝えなければならない」という熱い思いが、多様な形で伝導されているのを目の当たりにした。

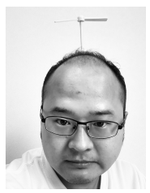
特に興味をもったのが、38年続けている「はだしのゲン」の語り、実は最近になって講談・神田香織によるという講談師の魅力に気づき、私も習い始めたばかりなのだ。古臭い伝統芸能と誤解されがちな講談だが、社会的メッセージを伝える大きな力を持っている。神田が語るときの声や表情から、彼女の頭の中に被爆直後の広島の様子がありありと思い描かれているのが窺われる。その様子は聴く者の心の中で再現される。原作にこめられた「戦争は絶対にしちゃいかん」という熱いメッセージは、講談でも確かに伝わってくる。（ナレーション担当：内田也哉子さんコメント）

2024 年 9 月 28 日放送
「はだしのゲン」の熱伝導
～原爆漫画を伝える人々～

【澄和平和活動賞】
神田 香織 さん

社会派講談の第一人者として、太平洋戦争の実相を伝える演目をはじめ、社会テーマに関連する作品を多数口演し続けています。中でも、原爆がもたらした悲惨な状況下で力強く生きる主人公を描いた漫画「はだしのゲン」を題材とした講談を 1986 年から 38 年間にわたり 1000 回以上、子供から大人までのべ 10 万人以上に向けて語り伝えてきました。

「命の尊さ」を何よりも大切にし、戦後世代として戦争の悲惨さを自身の話芸で語り継がねばという強い思いから「戦争の惨禍をわが事として感じ、戦争を起こさせないようにするにはどうすれば良いか」と問いかけ続ける独自の講談は、聴く人々に平和や幸福について深く考えさせます。



色紙織鶴
大学院生を働きながらしていまして、普段は、どもる人たち（吃音）の研究をしています。舞台の上で症状が出ることはあまりないのですが、僕自身もどもります。「吃音や言葉について考えたい」と思って、演劇や落語を続けてきました。講談は今回が初高座になります。

『吃又（吃の又平）』は、元々は、近松門左衛門の歌舞伎『傾城反魂香』の一場面にすぎませんでした。しかし、『吃又』の場面が人気を博し、次第に単独での上演が主流となります。講談や浄瑠璃などジャンルを超えて上演されるようにもなり、外伝的な二次創作も多数生み出されました。浮世絵にもたくさん描かれた又平は、おそらく日本の文学史上もっとも愛された「どもるキャラクター」です。

又平は、浮世絵の元祖、岩佐又兵衛がモデルとされています。荒木村重の息子として生まれた又兵衛は、父親の失脚後、信長の息子（信雄）や秀吉に仕える御伽衆としても活動していました。手塚治虫の『火の鳥　異形編』に登場する絵師の可平は、岩佐又兵衛を下地にしていると考えられます。

どもる人で、話す仕事についている人は実はたくさんいます。講談の世界では、先代の神田伯山先生や田辺一鶴先生が、「どもる講談師」でした。

江戸しりとり歌（講談教室テキスト）

幕末期の文久２年（1862 年）頃から歌い始められたとされる、代表的なしりとり歌

牡丹に唐獅子、竹に虎
虎を踏まえて和藤内
内藤様は下がり藤
富士見西行うしろ向き
剥き身、蛤、馬鹿、柱
柱は二階と掾の下
下谷上野の花鬘
桂文治は噺家で
でんでん太鼓に笙の笛
閻魔は盆とお正月
勝頼様は武田菱
菱餅三月花祭り
祭り万燈、山車、屋台
鯛に鰹に鮹、鮪
倫敦、異国の大港
登山するのはお富士さん
三遍廻って煙草にしょ
正直正太夫、伊勢の事
琴に三味線笛太鼓
太閤様は関白じゃ
白蛇の出るのは柳島
縞の財布に五十両
五郎十郎曽我兄弟
鏡台 針箱 煙草盆
坊やは良い子だねんねしな
品川女郎衆は十匁
十匁の鉄砲二つ玉
玉屋は花火の大元祖
宗匠の出るのは芭蕉庵
あんかけ豆腐に夜鷹、蕎麦
相場のおかねがどんちゃん
チャンやおっかあ四文おくれ
お暮が過ぎたらお正月
お正月二日の宝舟
宝舟には七福神
神功皇后竹ノ内
内田は剣菱七つ梅
梅松桜は菅原で
藁で束ねし投げ島田
島田、金谷は大井川
可愛けりゃこそ神田から通う
通う深草百夜の情け
酒と肴で六百出しゃままよ
ままよ三度笠横たにかぶり
かぶり縦に振る相模の女
女やもめに花が咲く
咲いた桜になぜ駒繋ぐ
繋ぐかもじに大象も止まる
止まる麦わら赤とんぼ
牡丹に唐獅子、竹に虎

神田香織の講談サロン「香織倶楽部」
半年６回コース。入会金１万円。
会費６回　12000 円
テキスト代（CD 付き）実費
会場：本郷文化フォーラム
文京区本郷 3-29-10 飯島ビル１階
お申し込み papan@ppn.co.jp

教室案内

神田香織 HP